



熊本を離れているけど 自分は「肥後モッコス」 これからも応援ヨロシク。

●西武ライオンズ——秋山 幸二選手
八代郡宮原町出身でプロ野球西武ライオンズの秋山幸二選手(25)に近況などをお尋ねしました。秋山選手はライオンズの三番バッターで、昨シーズンは、パ・リーグのホームラン王に輝きました。

——昨シーズンは素晴らしい活躍でしたね。
ええ、チームは日本一になれたし、僕はホームラン王。そして、日本一になったその日(11月1日)に長男が生まれました。名前も拓也。予定より10日早く、まるで日本一を祝ってくれるかのような誕生で…何よりのプレゼントでした。
——現在はシーズンオフということですが、どのように過ごされていますか。

“休養”と“自主トレ”この二つがメインですね。トレーニングには高田馬場にある“ビッグボックス”という室内のトレーニングセンターを利用しています。自宅(埼玉県所沢市)から電車ですぐだから便利がいいんです。チームのみんなは優勝祝いにハワイの方へ行くのですが、僕は、拓也が生まれたばかりなので、今回は辞退しました。そうそう、赤ちゃん結構重たいんですね。抱っこしていると筋力トレーニングになったりして……(笑)

——熊本へお帰りになることは？
忙しくて年に一度位しか帰れません。でもやっぱり郷里はいいですね。自然がたくさんで、心の底からのんびりできます。食べ物では、“馬刺し”が楽しみ。熊本を離れています。自分は熊本人—“肥後モッコス”ですね。頑固なところもあるもんね。
——来シーズンへ向けての抱負は？ズバリ、“三冠王”ですか。

うーん、それもいいけど、あんまり一度に取っちゃうと後の楽しみがなくなっちゃうかもね(笑)とにかく、一つ一つを大切に、もっともっとビッグになりたいと思います。
——最後に、熊本の皆さんに一言。
熊本は本当にいい所。大好きです。でも一つだけ淋しいのは、僕らの試合の放送が少なく、あまりなじみがないこと。頑張っていますので応援ヨロシクお願いします。そして、“西武ライオンズのファンになってください!!”



春の九州高校野球大会
ピッチャー秋山。



八代高校のクラスメートと。



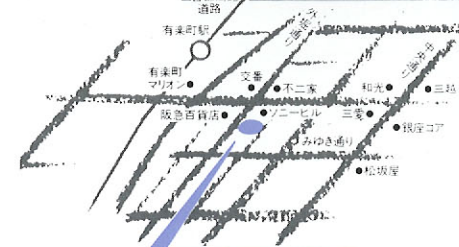
ライオンズへの入団がきまり、
自宅で。



熊本銀座座5丁目



“熊本情報の発信ステーション”
——「銀座熊本館」
昨年3月16日のオープン以来、
県内各地域の企業、グループが、
ここを舞台にさまざまなイベントを
繰り広げています。



“銀座熊本館”のご利用申し込み、お問い合わせは——
●熊本県東京事務所広報経済課
〒104 東京都中央区銀座5丁目3-16 ☎03(572)5022
●熊本県総務部広報課
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1 ☎096(383)1111

阿蘇町に住む彫刻家、新美虚炎さん(本名彰・70)の個展が十二月五日から九日まで開催されました。昭和十八年激戦地となったフィリピンに渡り、現地で夫と一人娘を失った新美さんが戦争の悲惨さと平和への願いを込めて、十二月八日の開戦の日に合わせて開いたもので、自らの体験を投影させた石ころや木彫りの作品は、戦争のむごさを無言のうちに訴え、また、自らのスライド「わたしのフィリピンものがたり」や「阿蘇の花」なども上映され、用意した



阿蘇町に住む彫刻家、新美虚炎さん(本名彰・70)の個展が十二月五日から九日まで開催されました。昭和十八年激戦地となったフィリピンに渡り、現地で夫と一人娘を失った新美さんが戦争の悲惨さと平和への願いを込めて、十二月八日の開戦の日に合わせて開いたもので、自らの体験を投影させた石ころや木彫りの作品は、戦争のむごさを無言のうちに訴え、また、自らのスライド「わたしのフィリピンものがたり」や「阿蘇の花」なども上映され、用意した

椅子が足りずに立ち見が出る程の盛況ぶり。観る人に深い感銘を与えたようでした。また会場では、阿蘇町婦人会の協力でお茶と、自家製つけものの接待もあり、訪れた人は思わぬ故郷の味、おふくろの味に大喜び。新美さんや婦人会の方も、「阿蘇はとってもいい所、春には阿蘇の火祭り、にぜひおいで下さい」と地元PRも兼ねての対応に連日大わらわりました。



編集後記

“特集”に替わる4ページの新年号特別企画“初夢くまもと21世紀”。いかがでしたか。

舞台は21世紀半ば過ぎの熊本ということですが、実際その頃はどうなっているのでしょうか。十年一昔といっていたのは、これこそ一昔以上も前のこと、最近の技術の進歩には驚くというより呆れる程です。21世紀の熊本、“初夢”までとはいかなくとも、技術と人間、そして人間と自然との関係が“対立”ではなく“共生”であって欲しいと願います。そのためには、今を生きる私達がしっかりしないといけないのです。未来とは絵に画いた理想像ではなく、今日に続く明日の積み重ねなのだから。ほら、21世紀はもう目の前ですよ。

ところで、これを書いていた梶尾真治さんの「おもいでエマノン」(徳間文庫版)を読まれたか。エマノンという名の不思議な女の子が主人公の、夢とロマンあふれるとっても楽しいお話。もし自分がエマノンだったら…、恋人が妻が、娘がエマノンだったら…。なんとなく身近にエマノンとの出会いがありそうで、そう考えるだけでもワクワク。でもこんな発想する作者の頭の中ってどうなっているのでしょうか。熊本生まれの熊本育ち、地元で社長業のかたわらSF作家をされているというのも、うれしくなりますね。さらにビッグニュース。このエマノン、「転校生」などの作品で知られる大林宣彦監督のメガホンで映画化の話もあるようです。

カジシンさん。これからも楽しい作品をいっぱい書いてください。応援してます。

今年もよろしくおねがいします



昭和62年度 第2回県民提案募集「要項」 地方の国際化

熊本の国際化をどう進めるか
応募方法
四百字詰め原稿用紙(五枚以内)に記入のうえ期日までに郵送又は持参してください。(提案に関する資料等の添付可)なお、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記してください。
募集期間
昭和六十三年一月一日から昭和六十三年一月末日まで(消印有効)
送り先及び問い合わせ先
〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号
熊本県総務部広報課
☎(096)383-1111
(内線0000)

